

全日本実業柔道団体对抗大会報告書

男子第一部は新日本製鐵が

2年連続31度目の優勝

女子第一部は自衛隊体育学校が

感動の初優勝

「春や昔十五万石の城下かな」の書き出しで名高い司馬遼太郎の小説「坂の上の雲」の主人公3人ゆかりの伊予松山において、5月28日、29日の両日、故山口信夫前会長追悼「厚生労働大臣杯争奪第61回全日本実業柔道団体对抗大会が開催された。奇しくも前日の27日は、主人公の一人秋山真之が智謀の限りを尽くして勝利をもたらし、日本海海戦の106回戦勝利の日であった。

参加チームは前回より30チーム少ない97。しかし、今年の世界選手権パリ大会



森 詳介副会長



上村春樹全柔連会長

代表選手も多数参加し、6試合場で繰り上げられる熱戦に応援団、観客の歓声が広い武道館に響き渡った。松山市では16年ぶり2度目の開催である。

開会式では年間最優秀選手の表彰があった。男子選手に贈られる永野重雄杯は昨年の全日本柔道選手権者の高橋和彦選手(新日本製鐵)、女子選手への宮崎輝杯は昨年の世界選手権東京大会二階級制覇の杉本美香選手(コマツ)が受賞。

初日は、男子第三部と女子第一部の試合が行われた。男子第三部は昨年初出場、今年から吉田秀彦新監督が率いるパーク24Aと重量級の選手を揃えた十全会回生病院が決勝戦で対戦。パーク24Aは豊富な練習に裏打ちされた素早い体捌きで十全会回生病院の重量陣を翻弄して、堂々

の初優勝を飾った。

女子第一部は3チームによるリーグ戦で行われ、自衛隊体育学校、コマツ、三井住友海上火災保険共に1勝1敗の同率の結果となったが、自衛隊体育学校が得失点差で上回り、大震災の被災地での復旧に死力を尽くす同僚に届けとばかり、感動の初優勝を果たした。準優勝は惜しくも5連覇を逃したコマツ。

二日目は、男子第一部、同第二部と女子第二部の試合が行われた。男子第一部は昨年と同様、新日本製鐵と日本中央競馬会が優勝を争った。新日本製鐵はエース高橋和彦選手を負傷で欠くも、主将の吉永慎也選手の活躍で昨年に続き代表戦を制し、2年連続、31度目優勝の偉業を達成した。



野志克仁松山市長



開会式

男子第二部は男子第一部常連のダイコロが、昨年男子第三部準優勝のセンコーを2対1で降して12年ぶり2度目の優勝を遂げた。この2チームに加え、準決勝進出の東芝、東洋水産の4チームが来年の第一部出場権を獲得した。

女子第二部はフォーリーフジャパンと昨年創部のJRR東日本グループとの決勝戦になり、フォーリーフジャパンが立山真衣選手の活躍で3連覇を果たした。

尚、来年度の第62回大会は、6月2日(土)、3日(日)の二日間、岩手県北上市の北上総合体育館に於いて挙行される。

男子第一部

新日本製鐵2年連続、31度目のV、
主将の吉永が万雷の声援を受けて
代表戦で巨漢立山を降す

決勝戦は昨年に続いて新日本製鐵と日本中央競馬会の対決。両者はそれぞれ準決勝戦で共に昨年と同じ顔合わせとなり、一方の新日本製鐵は宿敵旭化成Aを1対1の内容差で降し、片や日本中央競馬会は旭化成Bを3対0で退け決勝戦進出。



代表戦 ○吉永 優勢勝 立山

尚、試合時間は男女とも第一部は5分。
(その他の部は4分間。)

先鋒戦は、一回りも二回りも小柄な西山が間合いを取ってよく動き、組み際の左体落で会場を沸かせる。立山は巨体を利して押し込むも技が出ず。その立山に2分7秒指導1。終盤になって立山に上から圧迫された西山にも3分58秒指導1。その後は西山の動きが戻り、そのまま時間。

次鋒戦。上背で勝る石井が奥襟を引き付け前に出る。武田は組み際の体落、背負投で攻めるが石井には通じず。石井、場外際に追い込んで右大外刈で2分49秒に技あり。3分9秒には防御体勢を続けた武田に指導2。そして、残り43秒、石井は武田が背負投に入ろうとするところ右足で大きく払って一本。

中堅戦は、片刈が機敏な動きで森田を攪乱。3分34秒に森田に指導1が与えられるが、その後は両者に動きがなく引分。

副将戦。両者右組み。体格で圧倒する佐藤が奥襟を引き付けて圧力を掛ける展開。開始早々には吉永の巴投が潰れ、佐藤が上から押し掛かり寝技で攻めるが、吉永は足をからめて危地を脱する。1分42秒、吉永に偽装攻撃で指導1。2分19秒には防御姿勢で指導2。更に3分14秒に指導3の後、絶体絶命、後の無くなった吉永が一転反撃に転じ、3分34秒、佐藤の右腕を抱える変則の左背負投で佐藤をうつ伏せにし、伏した佐藤を裏返して

崩壊梁固に抑え込む。その時、会場の興奮は頂点に達する。吉永、起死回生の一本勝でタイに持ち込む。

大将戦は、左右の組手争いから互いに内股を繰り出すが決め手なし。3分18秒、山本に指導1。そのまま時間となり引分。代表戦は、体重差60kg近い吉永と立山の決戦となり、吉永は間合いを取りつつ早い動きから背負投、巴投を仕掛ける。立山も片襟から左内股を掛けるが共に効



男子第一部優勝 新日本製鐵チーム

果なく引分。ゴールデンスコアにおいても同様の展開ながら、吉永が背負投で立山を大きく浮かせる。その直後の1分4秒に立山に指導1が与えられる。その後、2分39秒偽装攻撃の吉永に指導1。そのまま時間となって、旗判定では審判3人の旗は赤旗、吉永に上がる。

優勝コメント

新日本製鐵監督 永井亮平

2連覇を達成する事ができ大変嬉しく思います。

今大会は怪我人が多く厳しいチーム状況でありましたが、出場した選手は団体戦に於ける其々の役割をしっかりとやり遂げた事が準決勝・決勝の接戦を制する事に繋がったと思います。また、出場できなかった選手も出場選手のサポートをしっかりとやってくれて、本当にチーム一丸となって勝ち取った優勝です！

今回の全日本実業柔道団体対抗大会連覇を良いステップ・自信とし、今後更なる高いチーム目標達成に向け、日頃から御支援して頂いている方々への感謝の気持ちを忘れず活動して行きたいと思っています。

男子第一部成績表

優勝 新日本製鐵
準優勝 日本中央競馬会
第3位 旭化成 A
第3位 旭化成 B



まるや接骨院、九州電力、東レ滋賀、日本通運の4チームは次年度第二部に降格する

【準決勝】

第1試合

新日本製鐵 ①-1 旭化成 A
西山将士 4段 —×— 大鋸新 5段
○森田祥一 4段 大外刈 木村純 3段
武田茂之 3段 —×— 西潟健太 3段
吉永慎也 4段 優勢勝 高井洋平 4段 ⊖
齋藤俊 3段 —×— 塘内将彦 5段

第2試合

日本中央競馬会 3-0 旭化成 B
山本宜秀 3段 —×— 出口雄樹 3段
○石井竜太 3段 大外刈 海老泰博 3段
鈴木龍 4段 —×— 垣田恭平 3段
○立山広喜 4段 小外刈 野田嘉明 3段
○片渕慎弥 4段 優勢勝 田中貴大 3段

【決勝】

新日本製鐵 ①-1 日本中央競馬会
西山将士 4段 —×— 立山広喜 4段
武田茂之 3段 足払 石井竜太 3段 ○
森田祥一 4段 —×— 片渕慎弥 4段
○吉永慎也 4段 崩壊寝固 佐藤充弘 4段
齋藤俊 3段 —×— 山本宜秀 3段
●吉永慎也 4段 優勢勝 立山広喜 4段
(代表戦)

平成22年度 年間最優秀選手



(永野重雄賞)

高橋和彦 (新日本製鐵)

(宮崎 輝賞)

杉本美香 (コマツ)

(功労賞)

該当者なし

優秀選手

〔男子〕

第一部

吉永慎也 (新日本製鐵)
齋藤俊 (新日本製鐵)
片渕慎弥 (日本中央競馬会)
石井竜太 (日本中央競馬会)
高井洋平 (旭化成 A)
谷本義人 (ダイコロ)
吉蘭勇太 (ダイコロ)
杉淵雄太郎 (センコー)
駒瀬雅洋 (センコー)
丸山兼矢 (東芝)
清水大輔 (パーク24 A)
平尾譲一 (パーク24 A)
延城啓和 (パーク24 A)
鎮守直樹 (千会回生病院)
山田辰彦 (松山刑務所)

〔女子〕

第一部

平井希 (自衛隊体育学校)
池田ひとみ (自衛隊体育学校)
上野巴恵 (三井住友海上火災保険)
立山真衣 (フアットジャパン)
川上由貴 (フアットジャパン)
杉本明日翔 (了徳寺学園)

第二部

男子第二部

第一部常連のダイコロが実力を発揮し、12年ぶり2度目の第二部優勝

昨年第三部準優勝のセンコーは、駆け足で来年の第一部昇格を決める

危なげなく準決勝戦進出したダイコロは準決勝戦で東洋水産を一蹴。対して昨年第三部決勝戦で旭化成と接戦を繰り広げるも惜しくも優勝を逃したセンコーは、決勝戦から4連統一本勝で東芝を降しての決勝戦。古豪チーム対新興チームの決勝戦。

先鋒戦は、共に右組み、ほぼ同じ身長、両者は互いに組手にこだわった。体重で勝る沼田がやや押し気味、受けに回った稲葉に2分43秒、指導1。その後も沼田は強引とも思える一本背負投で攻めるが、稲葉は余裕をもってかわし引き分け。

次鋒戦。軽中量級の吉蘭は、30kg近く重い手島相手に堂々と立ち向かい、開始24秒、手島の左内股をかわすや否や、左一本背負投で技ありを奪う。ポイントで先行された手島は猛反撃し、吉蘭に2分35秒指導1。その後も手島は内股で攻め、吉蘭は残り6秒に指導2を受ける。しかし、手島の反撃もここまで。ダイコロが先制点を上げる。

中堅戦は、左組み同士の杉淵と佐々田がつぶり組み合う。中盤過ぎ、杉淵が左大内刈から内股に変化すれば佐々田が横転し技あり。ポイントを奪われた佐々田は反撃に転じ、上から圧力を掛けると3分40秒、杉淵に指導1。しかし、佐々田の反撃も及ばず、センコーがタイに持ち込む。

副将戦。右組み同士の対戦。一回り大きな谷本が組み勝って、大外刈と支釣込足で猛攻を掛ける。2分14秒に石本に指導1。更に谷本は激しく宙に浮かせるが、石本が体を捻って辛うじて逃れる。この攻防の後の2分52秒、石本に指導2が与えられ、ダイコロが再びリード。

大将戦は、長身の合田は両襟を掴んで右大外刈、払釣込足を連発するが、駒瀬もよくこれを防ぐ。2分20秒過ぎには、駒瀬が右組みからフェイントを掛けて送足払を見舞うと合田が大きくぐらつき、あわやと思わせるが事なきを得る。その後は、両者は組み際の攻防に時間を割き引き分け。ダイコロの優勝成る。

優勝コメント

ダイコロ監督 小川豊清

昨年は、第一部で初戦敗退を喫し、第二部に降格という悔しい思いをし、今年は第二部で「必ず優勝して第一部に昇格」という目標を掲げました。また、愛媛県開催にあたり、今は亡き松本甫会長、主将の佐々田選手のご郷でもあり、錦を飾ろうとチーム一丸になり日々の稽古に励んできました。日頃から仕事と柔道の両立に妥協することなく、個々が高い意識を持って稽古に励んできた結果が、12年ぶりの優勝に繋がったと思います。又、私自身が現役時代に優勝して以来、久々の歓喜を味わってくれた選手達に感謝しています。

最後になりましたが、このような経験をさせて頂いたのも駕田会長、松本社長をはじめとする社員皆様の柔道に対する御理解、御協力のおかげだと思っております。本当にありがとうございます。



男子第二部優勝 ダイコロチーム

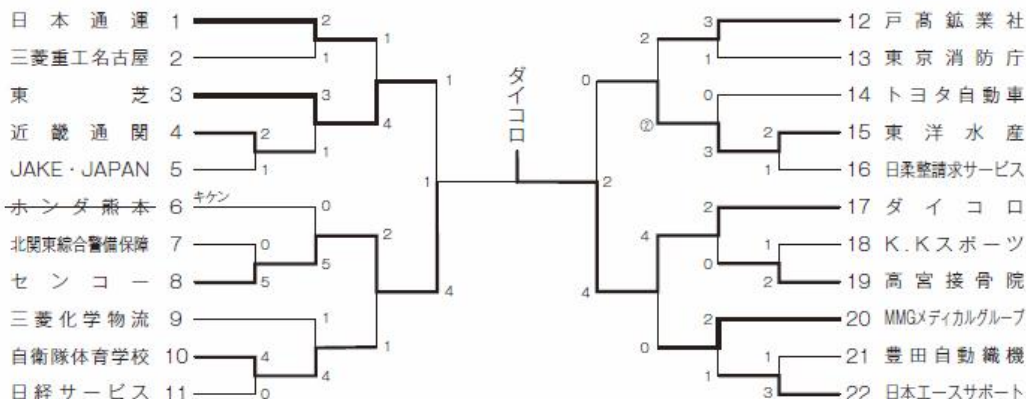
【決勝】

センコー	1-2	ダイコロ
沼田貴廣 4段	—×—	稲葉将太 3段
手島尚宏 3段	優勢勝	吉蘭勇太 3段①
①杉淵雄太朗 3段	優勢勝	佐々田裕良 3段
石本光樹 3段	優勢勝	谷本義人 3段①
駒瀬雅洋 3段	—×—	合田良太 3段

男子第二部成績表

優勝	ダイコロ	第3位	東芝
準優勝	センコー	第3位	東洋水産

以上の4チームは次年度第一部に昇格する



男子第三部

出場2年目のパーク24Aが強敵を次々と降し嬉しい初優勝
重量級を揃えた十全会回生病院は激戦を勝ち抜き、堂々の準優勝

72チームでの優勝争い。出場2年目、吉田秀彦新監督の下で優勝を目指すパーク24Aは、本大会を欠けの無い布陣で臨み、危なげなく決勝戦に進出し初優勝を目指す。対する重量級の選手でチームを構成した十全会回生病院は激戦を制して、こちらも念願の初優勝を目指す。

先鋒戦は米田左組み、清水右組みのケンカ組手の両者の対戦。暫しの組手争いの後、21秒に清水が場外際に左引手を握るや否や、内股一閃。見事に決まって一本。

次鋒戦。右組みの鎮守に対する左組みの平尾は倍以上の体重差をものともせず、開始42秒に大内刈で有効を奪い、そのまま袈裟固に。すぐに崩壊装固に移行して25秒。

中堅戦は、体重で劣る延城が堂々右組みで組み合う。1分過ぎには、延城は、西原が浴びせ倒すように体重を掛け来たところを、逆に右に捻るように西原を右隅に巻き落とすと、西原の巨体はごろりと回って倒れる。パーク24Aが3連続一本勝で、早々に初優勝を決める。

副将戦は右組み同士の戦い。坂田は月波に対し、釣手を殺して対抗する。攻撃しない月波に1分6秒指導1。しかし、1分55秒と2分28秒に坂田に袖口注意で指導が与えられる。その後は両者、一進一退の攻防の末時間。指導の数で月波の勝。

大将戦。右組みの西條に対し、左組みの海老沼は体重差をものともせず、真っ向から組み合う。開始9秒、海老沼は、西條の右足を内側から鋭く刈り込むと、

見事に決まって一本。海老沼、電光石火の早業で決勝戦全勝を決める。

優勝コメント

パーク24監督 吉田秀彦

監督就任1年目、また柔道部設立2年目にして伝統ある本大会の三部で優勝できたことは素直に嬉しく思っております。これもひとえに柔道部運営にご協力いただいたおります。柔道関係者の皆様、また優勝した選手たちを日頃から支えてくれた戦場の方々のお陰でありますことと心より感謝申し上げます。今大会では選手個人がそれぞれの役割を認識し、力を発揮してくれた結果優勝することができましたが、来年二部で戦うにはまだまだ力不足だと認識しております。

今回の優勝に甘んじることなく、これから1年また鍛え直して、来年二部で優勝できるよう精進します。



男子第三部優勝 パーク24Aチーム

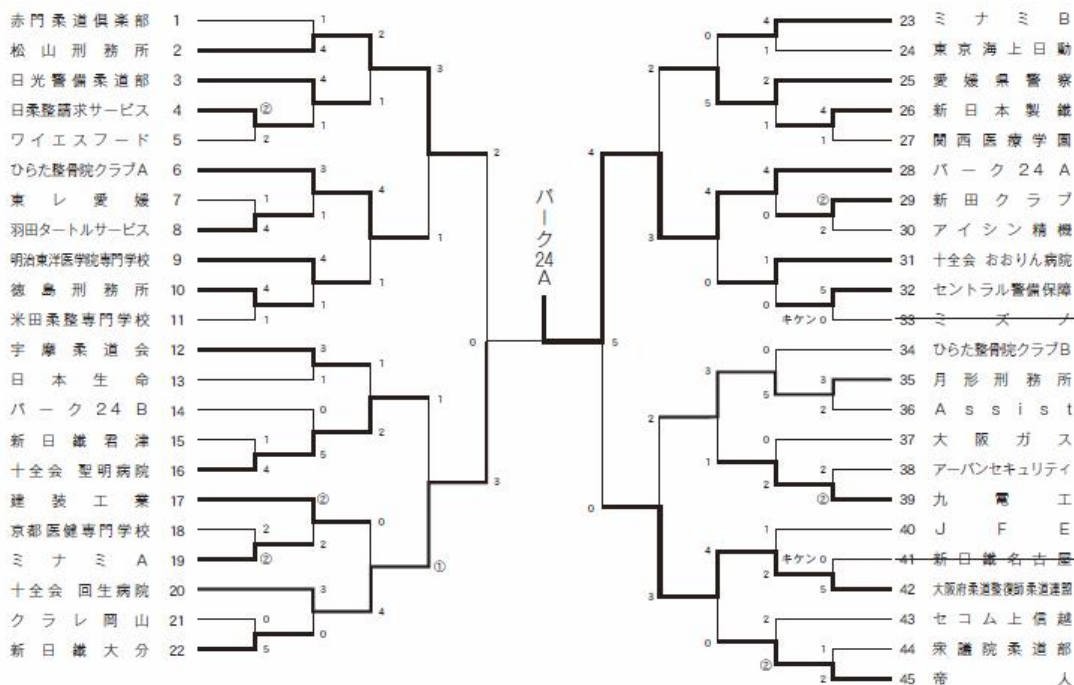
男子第三部成績表

優勝	パーク24A	第3位	松山刑務所
準優勝	十全会 回生病院	第3位	大阪府柔道整復師柔道連盟

ベスト8のチームは次年度第二部に昇格する

【決勝】

十全会 回生病院	0-5	パーク 24 A	
米田義弘	初段	内股	清水大輔 3段○
鎮守直樹	3段	崩壊装固	平尾諱一 3段○
西原克明	3段	すみ落	延城啓和 3段○
坂田秀幸	2段	優勢勝	月波貴広 3段○
西條裕喜	3段	大内刈	海老沼 聖 3段○



女子第一部

自衛隊体育学校池田がコマツ杉本を破る殊勲
被災地で死力を尽くす同僚に届けとばかり
感動の初優勝

女子第一部は昨年から3チームによる
巴戦となり一抹の寂しさを与えるが、各
チーム共に今夏のバリ世界選手権代表選
手を惜しげもなく起用し、一進一退見応
えのある戦いを見せた。

第1試合 コマツ対三井住友海上火災保険

先鋒戦。石川は右の送足払、内股、小
内刈、左一本背負投で終始攻勢に試合を
進めるが塩瀬を崩せず引分。次鋒戦。両
者、足技の攻防で見応えのある試合を展
開するが決め手を欠き引分。中堅戦。岡
が右組みから盛んに一本背負投を仕掛
け、阿部は左の体落、足技で攻める。阿
部の手数が優るが、共に決定打を欠き引
分。副将戦。上背で優る上野は開始49秒、
谷本の両袖口回りを握って、大内刈と見
せて左小内刈で有効。大将戦。1分過ぎ、
杉本は高橋の右背負投を潰して巧みに裏
返し、絞め技に入りながら脇をすくって
横四方固一本。

第2試合 三井住友海上火災保険対自衛隊体育学校

先鋒戦。塩瀬が引手を制して左の内
股、小外刈で攻撃し、指導1を奪う。そ
の後は両者の激しい攻防が続くも決め手
なく時間。次鋒戦。2分50秒に平井は中
村が小内刈に入る瞬間、出足払で横転さ
せ有効を奪う。中堅戦。阿部は指導1の
後、低い左内股で國原を回して横転させ
て有効。副将戦。中盤、場外際で磯辺が
仕掛けた右大内刈を上野が大内返で技あ

り。大将戦。中盤、池田は腰を引いた高
橋に左小内刈から体を捨てると、高橋は
支釣込足で切り返すも斜め後方に倒れ込
み有効。

第3試合 コマツ対自衛隊体育学校

先鋒戦。上背のある石川が右組みから
奥襟を押さえて有利に組み、右大内刈で
小島を攻める。技の出ない小島に1分
30秒指導1、2分17秒指導2。次鋒戦。
徐々に平井が攻勢を強め、宇高に3分7
秒指導1。4分35秒指導2。中堅戦。開
始早々、岡が左小内刈から左の払釣込足
に変化し有効を奪う。技が出ない定形に
1分15秒指導1、3分指導2。

副将戦。國原が右組みから攻撃を重ね
る。これを谷本が右一本背負投、左袖釣
込腰で揺さぶり両者互角の攻防で引分。
大将戦。杉本が内股、支釣込足で猛ラッ
シュを掛ける。しかし、1分35秒、杉本



女子第一部優勝 自衛隊体育学校チーム



杉本 優勢勝 池田○

【主な対戦結果】

コ	マ	ツ	①-1	三井住友海上火災保険
石川	慈	2段	×	塩瀬 絢子 2段
宇高	菜	3段	×	中村 美里 3段
岡	明日香	3段	×	阿部 香菜 2段
谷本	育	2段	優	勢勝 上野 巴恵 2段
○杉本	美	香 4段	横	四方固 高橋 千尋 2段

三井住友海上火災保険	②-2	自衛隊体育学校
塩瀬 絢子 2段	×	小島 愛子 2段
中村 美里 3段	優	勢勝 平井 希 2段
○阿部 香菜 2段	優	勢勝 國原 頼子 3段
○上野 巴恵 2段	優	勢勝 磯辺 友里 2段
高橋 千尋 2段	優	勢勝 池田 ひとみ 3段

コ	マ	ツ	2-②	自衛隊体育学校
○石川	慈	2段	優	勢勝 小島 愛子 2段
宇高	菜	3段	優	勢勝 平井 希 2段
○岡	明日香	3段	優	勢勝 定形 美希 3段
谷本	育	2段	×	國原 頼子 3段
杉本	美	香 4段	優	勢勝 池田 ひとみ 3段

優勝コメント

自衛隊体育学校監督 酒井英幸

こんなに早く達成できるとは思いま
せんでしたが、念願の実業団日本一を達成
できて、コーチ、選手一同感激しており
ます。

東日本大震災の被災地には未だに多く
の自衛隊の同僚が派遣されて苦労してお
ります。我々は柔道をやらせてもらって
いる事に感謝し、この成果が少しでも仲
間の励みになってくれたらうれいと思
います。

今回は最後まで諦めず、粘り強く役割
を果たしたのが勝因だと思っています。
まだまだチームとしては実力不足で追
いかける立場ですが、精進を忘れず、来
年もチャレンジ精神で頑張りたいと思
います。

女子第一部成績表

	コマツ	三井住友海上火災保険	自衛隊体育学校	勝 負	順 位
コマツ		○ ①-1	△ 2-②	1勝1敗	準優勝
三井住友海上火災保険	△ 1-①		○ ②-2	1勝1敗	第3位
自衛隊体育学校	○ ②-2	△ 2-②		1勝1敗	優 勝

女子第二部

大将立山、無類の強さを発揮して

フォーリーフジャパンを3連覇に導く
昨年創部のJR東日本グループは善戦
空しく敗れるも堂々の準優勝を果たす

女子第二部は、エース立山とバリ世界選手権大会57kg級代表の松本を擁して3連覇を目指すフォーリーフジャパンが、準決勝戦まで全勝、無敗、無敵の強さを発揮して決勝戦に進軍。対して、寝技による勝利を積み重ねて決勝戦初進出した出場2年目のJR東日本グループがディフェンディング・チャンピオン・フォーリーフジャパンに挑む。

先鋒戦は共に57kg級、左右のケンカ組手の戦い。互いにつぶりと組み合い、松本は右内股、小外掛で、上原は左体落、左背負投で攻めるが決まらず。上原の出足に松本は2度よろめく。その後、動きの止まった上原に3分12秒、指導1が与えられるがそれのみ。両者にポイント無く時間となり引分。

中堅戦。この両者も70kg、同じ階級の戦い。川上左組み、杉本右組み、両者の組手争いが続き、川上が体落で崩して寝技で攻めるが、決まらず引分ける。

大将戦は開始早々の6秒、組むや否や、立山の右膝車が見事に決まって一本。フォーリーフジャパンが輝く3連覇を達成。

優勝コメント

フォーリーフジャパン柔道部長 大 高 茂

この優勝は「昨年の初出場初優勝」「昨年の連覇」に増して、優勝の喜びと共に、関係各位、また応援していただく多くの皆様方の温かいご支援、ご声援の賜物と感謝の気持ちで一杯です。また、昨年と同様に、立山、川上が優秀選手に選ばれましたこと、重ねて厚く深く御礼申し上げます。

今後も、柔道部員同士が切磋琢磨し合い、トップレベルの大会で活躍できる選手を育成し、競技に集中できるより良い環境づくりを行いたいと思っております。



女子第二部優勝 フォーリーフジャパンチーム

女子第二部成績表

優 勝	フォーリーフジャパン	第3位	日光警備柔道部
準優勝	JR東日本グループA	第3位	ヤックスケアサービス

【準 決 勝】

フォーリーフジャパン 3-0 日光警備柔道部
○松本 薫 2段 袖釣込腰 石井 明 菜 初段
○川上 由 貴 3段 腕がらみ 國本美津子 2段
○立山 真 衣 3段 上四方固 遠藤あかね 2段

ヤックスケアサービス 1-2 JR東日本グループA
●東川 真 梨 3段 優勢勝 上原 円 3段
塩山 郁 恵 2段 横四方固 杉本明日翔 3段○
島本 裕 子 2段 優勢勝 小島 佑 香 3段●

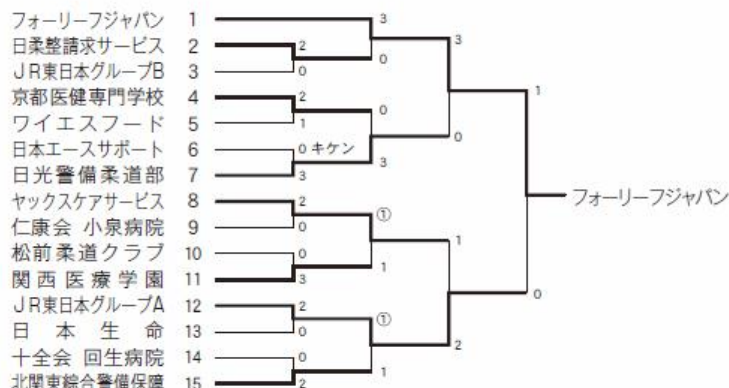
【決 勝】

フォーリーフジャパン 1-0 JR東日本グループA
松本 薫 2段 —×— 上原 円 3段
川上 由 貴 3段 —×— 杉本明日翔 3段
○立山 真 衣 3段 膝 車 小島 佑 香 3段



○立山 膝車 小島

今後とも引き続き、皆様の温かいご支援、ご声援を宜しくお願い申し上げます。



第61回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプション開催

5月28日(土)19時より松山全日空ホテル本館4階「ダイヤモンドボールルーム」において、第61回全日本実業柔道団体対抗大会歓迎レセプションが盛大に行われた。当夜は財全日本柔道連盟の上村春樹会長始め、多数のご来賓の方々や大会役員、競技役員並びに地元関係者など総勢130余名の参加があり、歓迎ムード漂う中、和やかな雰囲気ですレセプションが挙行された。

式典は会長挨拶から始まり、父君の影響でご兄弟揃って幼少から柔道に精進され、長じては東大柔道部主将を務められた宗岡正二新会長が、会長ご就任にあたり、ご自身の人格陶冶に大きな影響を与えた柔道への恩返しのため、連盟の発展に最善を尽くす旨の抱負を述べられた。続いて愛媛県柔道協会五島昌明会長の歓迎のことばがあり、ご来臨の来年の開催地岩手県北上市の佐藤良夫岩手県北上市柔道協会会長への真心溢れる激励のメッセージを寄せられた。

その後、感謝状の贈呈に進む。まず、昨年の第60回大会開催地の財団法人東京都柔道連盟福田二朗会長に感謝状と記念品が贈呈された。そして、当連盟副会長を実に21年、同理事長を18年の長きにわたり務められ、連盟のみならず我が国柔道の発展に筆舌に尽くせぬご功績を上げられた阿南惟正名誉顧問へ、感謝状と記念品が贈呈された。その後、村井温副会長発声による乾杯で祝宴に入った。

宴が始まると、参会者一同、瀬戸内海の海の幸に舌鼓を打ち、美酒に酔いしれて会場内は親睦ムード一色に染まる。そして宴たけなわになって、阿南名誉顧問が謝辞を述べられ、故神永昭夫元理事長から託された秘話を披露されると共に、自チームの優勝等々の想い出溢れる16年前の第45回大会と同じこの地で、こうした退任挨拶を行えるという巡りあわせに一人の感慨を寄せられた。



宗岡正二会長

その後、再び会場の至る所で全国各地のお国言葉が飛び交い、宴がクライマックスを迎える頃、次年度開催地を代表して佐藤良夫岩手県北上市柔道協会会長が次期大会に向け、抱負を述べられると共に、大震災に際して物心両面にわたり寄せられた全国

からの支援、激励に対する謝意と自粛から復興への熱き思いを吐露された。
宴もいよいよお開きの刻を迎え、棟田利幸愛媛県柔道協会副会長の万歳三唱で散会となる。出席者一同、明日の全日程の全うと来年、北上市での再会を期して三々五々に散会。こうして第61回大会歓迎レセプションは、宴のあとの余韻をここかしこにとどめつつ、その幕を閉じた。



歓迎レセプション風景

「定時総会」開催される

第50回定時総会及び平成23年度理事会は、平成23年5月27日(金)午後4時30分から愛媛県武道館大会議室にて開催された。総会は21社の加盟企業中、165社の出席(委任状提出含む)、理事会は59名の定足数中、57名(委任状提出含む)の出席により成立。議長には阿南惟正会長代行が選出され、第1号議案から第5号議案について満場一致で承認された。

- 第1号議案 平成22年度事業報告承認の件
- 第2号議案 平成22年度収入支出決算承認の件
- 第3号議案 平成23年度事業計画承認の件
- 第4号議案 平成23年度収入支出予算承認の件
- 第5号議案 平成23・24年度役員改選の件



- 発行日 2011年7月10日
- 発行人 全日本実業柔道連盟
- 発行人 事務局長 郷田博史
- 印刷 ダイコロ株式会社